

ひたちなか市 自治会連合会だより

第67号

発行日/2020年2月25日

発行者/ひたちなか市自治会連合会

広報委員会

(事務局:ひたちなか市市民活動課)

TEL 273-0111



自分たちの地域は自分たちで守る

関東を直撃した台風19号。ひたちなか市でも10月12日(土)から13日(日)未明にかけて、大雨警報が発表され、豪雨となりました。この影響で、那珂川の越水や支流の水が溢れ、広範囲にわたり浸水被害が発生し、市内では那珂川沿岸域の枝川、勝倉、栄町地区などが、床上153棟、床下355棟(11月28日現在)の浸水被害を受けました。

被災時、地域コミュニティや各自自治会では、日頃の“ご近所づきあい”が大きな力となって、被災者の支援などにあたりました。同じ地域に住む一人ひとりのつながりが、災害の時、大きな力を発揮します。災害は、いつどこで発生するかわかりません。いざという時、お互い助けあえるのが自治会です。「自分たちの地域は自分たちで守る」。自治会は重要な役割を果たしています。

(2, 3面に特集)





いざというとき、頼れる自治会。

自治会同士で助け合う

枝川地区

枝川地区は、13日早朝から那珂川が増水し、支流の早戸川への逆流や鳴戸川の水が溢れ、ほぼ地域全体にわたり洪水が発生したことで、床上浸水120棟、床下浸水226棟の被害となりました。

14日午前、浸水被害を受けた畳や家財道具などの

災害ゴミの搬出には、枝川自治会だけでは、トラックや人手が足りない状況でした。「二中学区地域の輪をつくる会」は枝川自治会の近藤会長より要請を受け、翌15日午前9時には軽トラックとボランティア約50人が枝川転作センターへと集結しました。

高齢世帯や女性世帯では、どこから整理してよいか迷っていた世帯が多くあり、「人手が足りなくて困っていた」「地域コミュニティの皆さんには、私たちに気にかけてもらっていることに感謝します」などの言葉がありました。

日頃の地道なコミュニティ活動が、災害時に大きな花を開かせました。“困ったときはお互いさま”のチームワークの良さが、コミュニティの形成に大切と感じました。



枝川転作センターにて災害ごみを搬出する様子

災害時も活躍，自治会集会所

小川自治会

13日、早朝より那珂川の水量が増水し、栄町水門脇より越水、道路が冠水し、住宅10戸以上が床上、床下浸水しました。避難所となった那珂湊第一小学校では情報が少ないため、自宅

の状況が分からず不安がつりました。

幸い自治会の集会所が少し高い場所にあるため、集会所を避難所として利用しました。集会所には非常食もあり、眠ることは十分ではなかったものの一夜を過ごすことができました。

その日のうちに、市職員と、災害ゴミの仮置き場の設定や搬出方法などを相談し、15日には、市職員と社会福祉協議会職員、そしてボランティアの方々に被災品の搬出や汚水の片づけなど家の中から庭まで清掃していただき、1週間ほどで片付けました。不便ながらも生活できるようになり、お手伝いいただいた方々には感謝するばかりです。



浸水被害を受けた栄町(2019年10月25日付 市報ひたちなか)



台風19号が直撃し、10月12日（土）午前9時から、小学校14校、中学校2校など22カ所の避難所が順次開設されました。13日（日）午前4時時点で582人が避難され、それぞれの避難所における最大避難者数の累計は838人となり、自分で避難が困難な避難行動要支援者も70人を超えました。

各自治会では、自治会員で声をかけあったり協力して災害ゴミを片づけたりするなど、大きな活躍を見せました。

的確な状況把握とタイムリーな行動

相金自治会

13日深夜2時前後の「避難指示」の放送を受け、自治会長と副会長が早朝から巡回を開始しました。田中町などの浸水に続き、海浜鉄道の相金踏切や相金町大通りが冠水し始めたため、午前8時、相金自治会自主防災会の連絡網を使い役員と班長に現状を電話連絡、不安のある会員に対しては、マイカーの高台への移動を勧めました。

その後は、主に中丸川の堤防越水が懸念されるため、相金町西側に広がる田んぼの増水状況を重点に監視を続けました。田んぼを隔てる道路はギリギリのところまで越水は免れましたが、線路脇の道路2本が、東に向かって100mくらい、側溝から越水して10～15cm程度冠水しました。このため3軒の自治会員宅から土嚢の要請があり、集会所の敷地内に常備の土嚢10数袋を貸し出し、どの家も屋内への浸水を防ぐことができました。

午後3時、水が引き始めたので、自主防災会による監視と巡回を解除しました。的確な状況把握と自治会員への情報提供、そしてタイムリーな行動がいかに大切かを再認識しました。



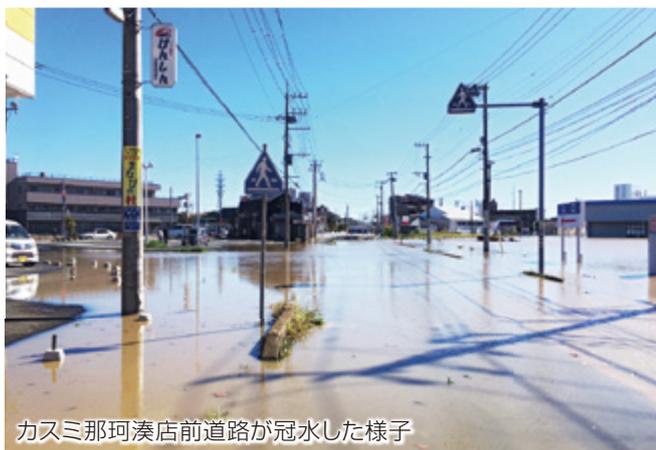
線路脇道路が冠水した様子

“おとなりさん”の大切さ

田中町自治会

13日深夜2時前後に「避難指示」の放送がありました。6時には町内道路の冠水が始まりみるみる広がっていき、栄町2丁目区域道路の70%、田中後道路の60%、高田の鉄橋駅近くの線路石床が冠水しました。自治会区域内で床上浸水6件、床下浸水18件、庭先冠水16件となりました。

そのようななか、田中町自治会では、防災無線や市職員、消防車からだけでなく、自治会内で役員や近隣住民が呼びかけ合い、計62世帯が施設や親族宅に避難することができました。16時頃からようやく水がひき始め、家族や友人・隣人が協力して、床下の水をポンプで排水、庭や路面の泥を高圧水で洗浄し、漂着ごみを道路脇に集積しました。



カスミ那珂湊店前道路が冠水した様子

14日から、市職員・ボランティア・友人・親族・近所の方々の協力で、漂着したプラスチック風呂桶などのごみを運搬排除したり、消毒薬散布も実施しました。

今回の被災を受け、11月26日（火）にひたちなか市と田中町自治会との意見交換会を実施し、那珂川の築堤に向けて署名活動を実施することを決定しました。

地域づくりを進めるうえで自治会とコミュニティ組織は、補完的な関係にあるということが出来ます。

これは、自治会で自主的、自立的に対応可能なものは自治会で行い、自治会では実施が困難もしくは非効率なものはコミュニティ組織が行うというものです。

市内83自治会では、それぞれ地域の歴史や伝統、特性を踏まえ、支え合い、助け合い、絆づくりの精神で、住民の福祉の向上や安全安心で住みやすい地域づくりに努めています。マンパワーの確保や限られた財源のもとでは、おのずと活動に限界があります。

一方、コミュニティ組織は、中学校区単位で組織化されており、秋季運動会や各種スポーツ大会、芸能音楽祭、趣味の作品展示会など、自治会では実施することが難しいより広域的な活動の展開が可能です。

地域づくりに協働で取り組んでいる自治会とコミュニティ組織として、今後も適切に役割と機能を分担して、それぞれの特性を生かした地域づくりが進むことを願っています。

地域清掃活動に参加

<勝田地区>

「地域清掃の日」一意義ある子どもの参加（常葉台自治会）



「地域清掃の日」に合わせて12月1日（日）に、自治会と育成会が中心になって地区清掃を行いました。師走となり、さすがに朝は冷えましたが、集合場所の中央公園にはごみ収集用のビニール袋を持った子どもたち約40人、大人は60人集まり、熱気が感じられました。自治会長のあいさつの後、団地内のごみ拾いに繰り出しました。

子どもが地域の清掃活動に参加するのは、意義があると思います。通学路以外の自分が住んでいる地区を知ることができます。また、大人とともにごみを拾う

ことで自治会行事への参加意識が芽生えます。さらに、捨てられた様々なごみを通して環境問題への関心が生まれるのではないのでしょうか。

16歳のスウェーデンの少女が、地球環境保護を訴えて話題になっています。はたして参加した小学生たちは、ゴミ問題をどのように考えているのか、聞いてみたくくなりました。

<湊地区>

環境美化に参加して（釈迦町自治会）

年間を通して2回実施される「地域清掃の日」そして、「環境美化の日」。わが自治会では、回覧を通して皆さんに周知し、参加してもらっています。また、自治会地域に6カ所の花壇を作り、地域の皆さんの協力のもと、花苗の植え替えも実施しています。普段の生活の片隅に自分たちの手で作った花々が存在していることが、皆さんの心の潤いにつながると思います。

「環境美化運動」を実施する前は、道路を見渡してもゴミなどはあるとは思えませんが、一回りゴミ拾いしてくると驚くほどのゴミが集まります。生活環境への目を向ける大切な事業ではないのでしょうか。



自治会トピックス

一足先にサンタがやってきた 二中学区

12月14日(土)、子どもふれあい館(市毛)で、クリスマス会が行われました。当日は、晴天に恵まれ、600人を超える親子連れで会場は大賑わいでした。

開会式後、突然サンタクロースが現れ、良い子たちにお菓子のプレゼントがあり、子どもたちは大喜びでした。

子どもたちは、ボランティアのお父さんたちから、杵と臼で餅つき指導を受け、重い杵を持ち上げ、楽しそうに餅つきを体験していきました。つきあがった餅に、あんこやきな粉をつけて、美味しく食べていました。会場では、景品付きの魚つき、ダーツ、輪投げコーナーなどもあり、家庭と違った雰囲気のカリスマスを楽しんでいました。



我がふるさとまつり

前渡地区

恒例の、第41回前渡ふるさとまつりは「笑顔の出会い・ふれあう心・地域の輪」をテーマに11月17日(日)開催されました。今回も勝田第三中学校の生徒達が前日より応援に駆け付け、当日は120名の生徒達がまつりの案内・販売等に協力してくれました。まつりの体験を通し、地域の方達と身近に接し合い、将来、子どもたちがふるさとの良さを実感し戻ってくれる。そのような学校の願いも込められています。まつりには来賓を始めとして延べ2,500人の皆さんが来場し、展示・模擬店販売・芸能発表を思い思いに楽しむ光景が見られました。今後このまつりを通じ、三世代の交流が活発に進むことを期待したいと思います。参加された皆様ご協力ありがとうございました。



大島ふれあいフェスタを実施 大島地区

11月16日(土)、17日(日)の両日、第35回大島ふれあいフェスタが開催されました。

16日は大島コミセン館内で絵画、書道、生け花、絵手紙、切り絵、パッチワーク、小学生の作品など、1年間の成果の展示が行われました。さらに17日は会館前駐車場で模擬店やアトラクションなどが行われました。

模擬店は地域の自治会や地域づくりの会の実践部門が担当し、つきたての餅、焼きそば、焼き鳥、綿あめ、農作物、お菓子などが来場者の人気を集めました。

アトラクションでは大島中吹奏楽部や東石川小陣太鼓の演奏、利用者団体による各種演技などが披露され、会場のボルテージは最高潮となりました。

両日も絶好の秋晴れに恵まれて多くの家族連れが訪れ、賑やかで和やかな地域住民交流の一日でした。



うなぎ溜緑地は今

田彦中学区

堂端自治会地内には治水対策上の重要な施設のうなぎ溜があります。昨年秋の集中豪雨では、このうなぎ溜が溢れ、周辺住宅は床下浸水の被害に遭いました。その周辺緑地は一年中いろいろな花が咲き、住民の憩いのオアシスとなり、生活に潤いを与えています。

以前この緑地は、ひどい荒地で雑草とごみの山に覆われ、通り抜けることもためらう様な空き地でした。しかし、10数年前に付近の住民有志により、市役所から借地をし、自治会等の支援も受け、ボランティア会員の活躍により花壇として整備され、この広い荒地が花と緑のすばらしい公園となりました。しかしながら、今後会員の高齢化が進み、いつか市へ返還となると再び昔の荒地と化していくのか、一抹の不安がよぎります。



地域の絆・地域の力

安全・安心な地域づくりやお祭りなどの地域コミュニティ活動は、子どもたちの楽しい思い出の1コマとして刻まれています。

自治会活動推進ポスタ



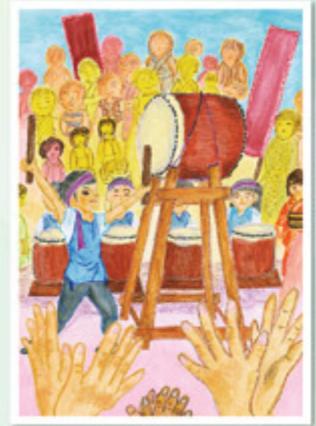
那珂湊第三小学校 6年
いそぞき ゆり
磯崎 友理



磯崎小学校 3年
かわかみ りま
川上 凜真



東石川小学校 6年
わたなべ みさこ
渡辺 美沙子



東石川小学校 6年
さいとう みさき
齋藤 美咲



那珂湊第二小学校 2年
こん にこあ
今 虹光安



那珂湊第一小学校 3年
ごとう ももこ
後藤 桃子



堀口小学校 4年
たけやす ゆり
武安 優莉

自治会活動推進ポスター表彰式

11月3日(日)、市産業交流フェアにあわせて、自治会活動推進ポスター最優秀・優秀賞受賞者の表彰式が行われ、ひたちなか市自治会連合会会長から賞状と記念品が手渡されました。

また同イベントの市総合体育館内では応募作品の展示ブースが設けられ、多くの来場者が力作ぞろいのポスターを鑑賞しました。



一優秀賞

「子どもたちにも思い出が光る自治会活動」



枝川小学校 1年
ひらつか みゆ
平塚 心結



三反田小学校 5年
きだ みらい
木田 未来



市毛小学校 2年
ねもと みずき
根本 瑞己



中根小学校 1年
さかわ はやと
佐川 隼斗



長堀小学校 5年
おかもと ゆうあ
岡本 結愛



長堀小学校 2年
ほりうち かえ
堀内 夏恵



勝倉小学校 6年
かざみ ななは
風見 七葉



佐野小学校 3年
たなせ ひな
棚瀬 ひな



平磯小学校 2年
せきね とあ
関根 翔亜



外野小学校 3年
みちの ちなつ
道野 千夏



前渡小学校 3年
すみだ ゆみ
角田 結海



前渡小学校 2年
おおわだ なお
大和田 菜央

自治会活動推進ポスター最優秀賞作品

田彦小学校 5年 小野 綾花

自治会や地域活動への理解と参加を推進することを目的に、小学生に夏休みの作品募集のなかで、自治会活動推進ポスターの応募を呼びかけました。

地域の夏祭りや運動会、登下校時の見守り活動、防災訓練などを描いた全 99 作品が集まり、最優秀賞 1 点、優秀賞 19 点が選ばれました。最優秀賞は田彦小学校5年 小野 綾花さんの作品に決定され、今後の自治会活動の呼びかけに活用されます。

(前ページに優秀作品を紹介)



自治会連合会リーダー研修に参加して

龍之口町自治会

東京都東久留米市 水川台自治会顧問、殿田氏による「様々な取り組みによる地域コミュニケーションの活性化」水川台団地のまちづくり」と題して、9年間にわたる努力とその成果について実体験を通じた講演を拝聴し、久々に強烈なインパクトを受けました。

特に、活性化に向けての現状把握・分析から活動目標設定、解決への行動とステップが明確で、共有されており、これまでの努力とその成果にただただ感動するのみでした。

私たちの自治会は、ひたちなか市の中でも高齢化率が高い地域です。東日本大震災による津波・液状化被害の影響が大きく、空き家、空き地の増加、高齢化の進行が顕著で、75歳を超える後期高齢者が30%を占めています。このような環境のもと、本年4月に自治会長に就任しましたが、運営、活性化対策など未だ手探りの状態のなか、今回の研修会は良いタイミングでありました。これからの活動に当たって、「課題の整理、分析、目標の見える化」などを参考に、身の丈に合わせ「力まず、悩まず、地道に」を念頭に取り組んでいきたいです。実践に当たっては、人的資源が乏しいなか、元気な高齢者パワーの活用と私の15年間の民生委員活動で得た知識と経験を生かし、自治会と民生委員活動の融合・協働化を図りながら活動の効率化、活性化に結び付けたいです。

編集後記

台風19号による那珂川の氾濫で甚大な被害を受けた方々に心よりお見舞い申し上げます。

毎年、日本各地で様々な災害により甚大な被害がもたらされていますが、日頃からの備えと、「発生した時はまず自分自

身を守る、ご近所で助け合う」という気持ちが必要だと思います。

地域の行事への参加などでつながりを深め、もしもの時はご近所で助け合う関係を皆さんと一緒ににつくっていききたいと思います。

自治会についての詳細情報は、市のホームページにも掲載しています。

